



# 研究所だより



本年度も残り少なくなり、皆様方にはご多忙な毎日をお過ごしのことと拝察申し上げます。この時期になると「歳寒の三友」という言葉を思い浮かべます。厳しい冬の寒さに耐え、緑の葉を保つ松、真っすぐに伸びる竹、良い香りの花を咲かす梅の三つの植物は、人の心を和ませてくれます。逆境の中で友となる三つの植物のことですが、私たちの生活の中では「松竹梅」と呼び、なじみ深い言葉になっています。もう春を感じさせる季節となりましたが、新型コロナウイルスによる感染拡大の心配はまだ続きそうな状況です。このいつになったら終息を迎えることができるのかわからないという逆境の中ですが、いつかは平穏な日々が戻ってくるという希望をもって、耐え忍んで乗り越えたいと思っています。

さて、中土佐検定も1月に中学校漢字、2月に小学校算数、中学校数学、英語を終えて、本年度のまとめの時期となりました。小学校では、新学習指導要領に対応した中土佐検定テキストを活用して、算数の基礎学力をしっかりと定着させています。この基礎学力を更に中学校では発展させ、学力向上に結び付けるよう取組を行っています。英語に関しても、小学校の教科として導入されましたので、中学校では発展的な学習が行われています。どの教科も中学校における発展的な学習を行うには、小学校での学習内容や指導方法、授業内容等を知ることは必須であり、それが学校間の連携活動の一つとなります。小学校でどんな授業をしているのか分からないでは、子どもたちの実態が把握できないし、指導方法や内容を知ることもできません。学校間の公開授業や交流授業等の連携活動を行うことで、子どもたちが安心して入学、登校し、学校や授業も楽しくなってもらいたいと思います。

また、中土佐検定に関する取り組みを通じて、児童生徒への指導方法、家庭学習の定着状況、学校間の連携教育活動等での様々な成果や課題が見えてきます。基礎学力の定着だけの中土佐検定ではなく、検定を行う意義や検定結果より考えられることにも目を向けて欲しいと感じています。

教育研究所 所長 古味 秀夫

## 目 次

1 所長より	P 1
2 研究所の取組・中土佐検定結果	P 2 ~ P 3
3 間違いランキング問題確認	P 4
4 輝く子どもたち	P 5
5 研究員の取り組み	P 6

## 本年度の研究所の主な取組

- ① 中土佐検定の実施（小学校算数 3 回・中学校数学と英語 3 回 中学校漢字 2 回）
- ② 中土佐検定テキスト作成（中学校数学と英語）
- ③ 中土佐検定の結果分析と間違いランキングの作成
- ④ 中土佐検定の取組支援（個別支援指導）
- ⑤ 算数・数学科において主体的・対話的で深い学びのある授業づくりについて（研究員による教科研究テーマ）
- ⑥ 各種学力調査の結果分析と中土佐検定の関連調査
- ⑦ 学校における研究授業への参加
- ⑧ 情報発信（町の広報掲載，研究所だより発行，ホームページ作成）
- ⑨ 研修会への参加（高知県教育研究所大会，研究所中西部地区連絡協議会研修）

### 教育研究所ホームページについて

中土佐町教育研究所のホームページを作成しました。

中土佐町のホームページの中より「教育委員会」に入り，その中に「中土佐町教育研究所」のホームページがあります。研究所運営方針，主な活動，研究所だより等を掲載しています。よろしく願いいたします。

## 令和3年度 小学校中土佐検定結果

◎第3回算数（小学校） 2月9日実施

学年	1年生 (16級)	2年生 (13級)	3年生 (10級)	4年生 (7級)	5年生 (4級)	6年生 (1級)	町全体
受検者数	31	35	30	33	43	32	204
平均点	97.4	94.0	94.6	83.9	86.1	87.7	90.3
合格率(%)	100	100	100	93.9	95	100	98

※平均点は本試験のものです。合格率は再試験，再々試験を含めてのものです。

年間を通じて，小学生はほぼ全員が算数の基礎学力を身に付けていると思います。学年が上がると平均点はやや下がってきますが最終的にはほとんどの児童が検定に合格しています。間違った問題は，もう一度やり方を確認し，失敗は学びのチャンスと捉えましょう。

## 令和3年度 中学校中土佐検定結果

◎第2回漢字（中学校） 1月20日実施

学年	1年生 (5級)	2年生 (3級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	34	22	43	99
平均点	84.8	77.4	93.4	86.8
合格率(%)	97	95	100	98

◎第3回数学（中学校） 2月3日実施

学年	1年生 (7級)	2年生 (4級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	34	22	43	99
平均点	80.9	74.5	80.3	79.3
合格率(%)	91	95	91	92

◎第3回英語（中学校） 2月3日実施

学年	1年生 (7級)	2年生 (4級)	3年生 (1級)	町全体
受検者数	34	22	43	99
平均点	83.3	80.8	75	79.1
合格率(%)	91	91	86	89

※平均点は本試験のもので、合格率は再試験、再々試験を含めてのもので、

第1回の中土佐検定が数学89%、英語87%、第2回が数学89%、英語88%の合格率で、2教科ともに上がってきました。学校行事等で多忙な中を3教科の検定への取り組み方法を工夫し、どの子どもにも基礎学力が定着するよう取り組んでいただいているお陰だと思っています。

## まちがいランキングの問題確認

第3回中土佐検定において、特に誤答率の高い問題は下記のとおりとなっています。

この間違いを次回はしないように、また、させないように再試験、再々試験に向けて、どこで間違ったのか確認し、繰り返し練習をしてやり方を身に付けていると思います。その積み重ねが子どもたちの学力となり、自信に繋がり、次のやる気へと発展するのではないのでしょうか。

今回は、算数・数学の計算問題、英語の並べ替え問題での誤答率の高い問題を掲載しましたが、どの問題も難問ではなく、ちょっとした勘違いや練習不足なところで間違っているように思います。テキストの中のプレテストを行った段階で間違いの多さに気づき、修正されると、検定を実施した際の誤答率も改善されるように感じました。プレテストは検定前の大切な確認テストです。プレテストでの間違いランキングにも目を向けていけばと思いました。

学 年	問 題	誤答率	誤答例
小学校 4年	計算をしましょう。 $36 \div 2 \times 3$ 解答 54	75%	6 2×3を先に 計算した
小学校 5年	次の計算をしましょう。 $\frac{1}{4} - \frac{7}{52}$ 解答 $\frac{3}{26}$	42%	$\frac{6}{52}$ 約分してない
中学校 3年	次の計算をしなさい。 $\frac{x+5y}{5} - x + 2y$ 解答 $-\frac{4}{5}x + 3y$	67%	$\frac{-4x+15}{5}$ yを書き忘れている
中学校 3年	日本語に合うように、( )内の英語を並べ替えなさい。 わたしはたくさんの人々が楽しめるスポーツが好きです。 ( sports / can enjoy / that / like / many people / I ) 解答 I like sports that many people can enjoy.	70%	I like sports That can enjoy many people.
中学校 3年	日本語に合うように、( )内の英語を並べ替えなさい。 韓国で人気になった歌手はアキです。 ( who / Aki / became popular / is / the singer / in Korea ). 解答 The singer who became popular in Korea is Aki.	63%	The singer is Aki who became popular in Korea.

# 輝く子どもたち

3学期に入り、新型コロナウイルス感染拡大により学校への訪問があまりできませんでした。幼児、児童生徒への感染拡大による教育及び社会活動への影響は大きく、各学校でも対応に苦慮したことと思います。授業が参観できました学校では、児童が積極的に発言し、友達と関わる活動が行われていました。授業者の先生方には、参観させていただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

☆12月7日(火) 上ノ加江小学校道徳科研究授業 授業者：中尾 詠子 教諭  
1・2年 道徳科 主題「みんなでつかうものだから」 教材「黄色いベンチ」

内容項目は「規則の尊重」で、みんなで使うものを大切に扱う必要があることを、わかっている自分のことを優先し、正しく扱えないという内容の資料です。2年生が積極的に発言し、授業を引っ張っているように感じました。友達と関わりをもった発言ができ、人の意見を大切にしている様子がよくわかりました。主人公の「はっ。」という気づきを繰り返して深めるところが、中心発問でより主題に迫れるように感じました。教室環境や児童への適切な評価、簡潔な板書がとても参考になる授業だったと思います。



☆1月26日(水) 久礼小学校授業研究 授業者 吉本 理 教諭  
5年 総合的な学習の時間 「Our treasure!」

「久礼の宝物」を発信する際、友達から更によくなるための意見を聞く授業展開でした。児童からの発言が多く、みんなの方を向き、自分の言葉で発言していたところは、とてもよかったと思います。授業者も児童からの意見をよくまとめ、課題解決に導いていました。全員でよく考え、問題解決に向けての話し合いができた授業だったように思います。



この一年間、各学校を訪問して授業参観をさせていただき、ありがとうございました。町内の子どもたちの輝いている目、先生方の熱心な指導、支援のすばらしさを感じました。ずっと以前によく「授業は事前の準備で決まる」と言われたときがありました。今の授業を観ていると、学習指導案にしても、授業準備にしても、教育機器にしても時間をかけ、綿密に研究、準備されている様子がわかります。ずっと以前の教科書とチョーク箱を持って授業にいていたことが信じられません。

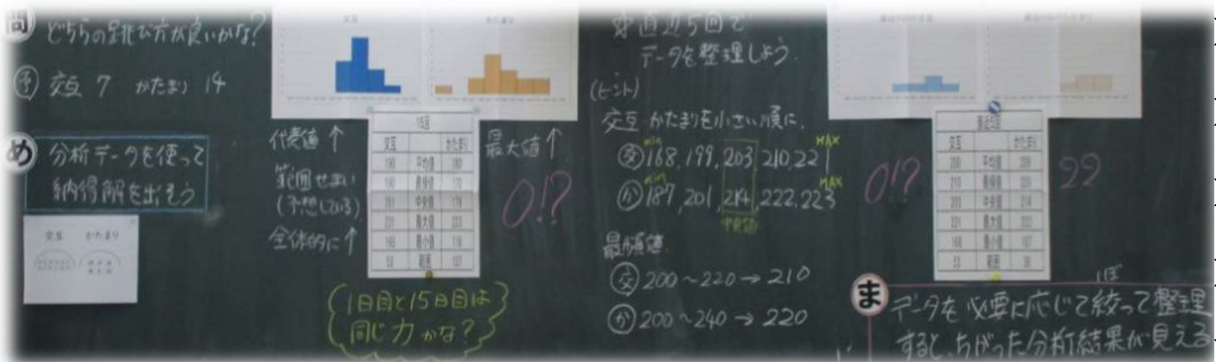


## 「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」に関する研究 研究員 森 将人

町内3小学校にご協力いただき、「データの特徴を調べよう」の単元の指導について出前授業をさせていただきました。単元のゴール（目指す子どもの姿）を、『データの整理の仕方を理解し、それらを活用して問題を解決することができる』として、取り組みました。

町内の児童は、令和3年度全国学力学習状況調査の結果から、この領域において正答率全国比+4.0であり、同調査「棒グラフから読み取って選ぶ」問題では、全児童が正解するなど、既習の内容は定着していると言えます。しかし、授業の事前に行った問題「TVレポーターの発言はグラフの説明として適切か?(小学校学習指導要領P.312)」では誤答率が7割となっており、データを批判的に考察することに課題があると分かりました。そこで単元を貫く問いを『もっと詳しくデータを分析する方法は無いかな?』として、教科書の問題だけでなく、日常における様々な事象をもとにしたデータの整理・分析を行うことで、この単元・領域を学ぶことの必要性や良さを感じられるように工夫しました。具体的には、「商品の仕入れを考えるには最頻値を使えばよい」や「全体の中での順位を比べるためには中央値を使う」と学ぶことで、児童は既習の平均値以外でもデータを比べる方法を知ったり、ドットプロットに表すことで最小値や最大値を見つけやすくなったり、ヒストグラムの形からデータの特徴を見いだすことでより納得できる説明ができるという実感を得ました。

また、用いるデータが同じでも、その分析の仕方や着目する点により結論が異なることを実感させるために、以下の授業を行いました。



大縄跳び大会で優勝するためにどちらの跳び方が良いかを考えました。直感では「かたまり」の跳び方が「交互」の2倍であったが、15日間の練習データをもとに整理・分析すると全員が「交互」となりました。そこで児童たちに「練習1日目と15日目は同じ力かな?」と問うことで、全てのデータでなく直近のデータを再度整理・分析した方が良いことを見だし、その結果「かたまり」の跳びの方が良いと、全ての児童が納得した答えを出していました。

中学校でもこの単元の学習が続くので、今回の授業が少しでも役に立てば幸いです。